WORDS OF LIFE

これがオレの生き様だ

愛と絆で、恩に報いる。そして共に昇れ。

森 翔太郎

序　　文

情報が溢れ、言葉が消費される時代である。

SNSには日々、無数の言葉が流れては消えていく。その多くは、誰かの受け売りか、あるいは注目を集めるためだけに紡がれた薄い言葉だ。真に重みのある言葉に出会うことは、決して容易ではない。

森翔太郎氏の言葉に初めて触れたとき、私は直感した。「この人は違う」と。

直接言葉を交わしたわけではない。それでも確信できたのは、彼の言葉の一つひとつに、体験に裏打ちされた揺るぎない重みがあったからだ。

十代で建設現場の丁稚から身を起こし、職人として、現場管理者としてあらゆる役割を一身に担いながら這い上がってきた叩き上げの人間にしか語り得ない言葉がある。苦しみを知り、孤独を知り、それでも前を向き続けた者だけが持つ、言葉の密度がある。

現代社会は、効率と合理性を尊び、苦難からの回避を肯定する。それ自体を否定するつもりはない。しかし、困難から逃げ続けた先に、本当の意味での強さは育まれない。壁にぶつかったとき、自分を支える言葉を持っているかどうか、それが、人生の岐路において決定的な差を生む。

本書に収められた言葉は、どこかの誰かが書いた理論ではない。泥と汗と涙の中から絞り出された、生きた言霊である。

今、どう生きればいいのかわからず迷っている人へ。壁の前で立ち竦んでいる人へ。自分の可能性を信じられなくなっている人へ。本書はそのすべての人に向けて、真正面から語りかける一冊である。

私がこの本を作ったのは、他でもない、自分自身がこの本を必要としていたからだ。森翔太郎氏の言霊を、消費されるコンテンツとしてではなく、いつでも手元に置いておける「教科書」として形にしたかった。

Xのスペースでの出会いがきっかけとなり、この本を作らせていただく機会を得たことを、この上ない光栄と感じている。

一人でも多くの人に、この言霊が届くことを願って。

どうかこの一冊が、あなたの人生のお守りであり、教科書となりますように。

2026年　夏

ギャルデザイナーぽんかな

塙香那

CHAPTER 01

第1章
生き方・人生哲学

WORDS OF LIFE

No. 001

本当に苦労してきた人の土台には、必ず「愛」がある。

苦労して努力して伸し上がってきた人には「本物」の愛が潜んでます。

どん底から這い上がってきたり、壮絶な過去を乗り越えて来た人は、人の痛みを「人一倍」肌で感じてます。

人間は、困難や苦労を乗り越えるほど、愛が深くなる。

そして不思議と、自分の壮絶だった過去にも「心」から感謝できるようになるものです。